

県南教育事務所
教育情報

南nanpu風

平成27年 12月16日(水)
No. 8 【通巻第82号】
文責：八木浩司

いわての復興教育



平成27年9月30日(水)、東山地域交流センターにおいて、午前中は復興教育担当者研修会を、午後は復興教育講演会を行いました。午前の研修会は、講義と2つの実践発表、協議を通して「いわての復興教育副読本」を活用した組織的・有機的指導の充実について考える機会となりました。午後の講演会は、講義と講演を通して主に「学校の防災力の向上」について改めて考える機会となりました。

復興教育担当者研修会

管内の各校から1名参加の悉皆研修として行いました。
また、今年度は、実践的安全教育総合支援事業モデル校である2校に実践発表をしていただきました。

講義 「副読本を活用した復興教育の推進」

<研修者の感想から>

- ・“ハードだけでは命守れぬ”をもう一度考えたい。
- ・地域、子どもの実態を踏まえ、ねらいを見失わないよう、落ちのないようにしていきたい。

協議 「副読本を活用した復興教育の推進」

<研修者の感想から>

- ・「復興教育に必要なのは『使える計画』と『見える評価』だ」をキーワードに、活動を見直したい。
- ・他校の推進状況を聞く中で、本校に取り入れていくべき事項を見つけることができました。
- ・「いつ、どこで、どんなことをするのか具体的に提案し、実践した後は紹介してもらおう」という取組がとても参考になった。



実践発表 「いわての復興教育副読本の活用」



奥州市立玉里小学校
千葉芳恵 先生

- ・教科等との関わり
- ・家庭との連携
- ・日常的な副読本活用



一関市立興田中学校
高橋和恵 先生

- ・地域復興の取組
- ・防災マップ作り
- ・防災教育の小中連携

★両校から、副読本を活用した防災教育の実践を発表いただきました。両校とも沿岸被災地の学校との交流から学んだことを生かした実践でした。

<研修者の感想から>

- ・各教科、領域と関わらせた副読本の活用の紹介が、大変参考になった。自校の副読本の年間活用計画を見直したい。
- ・「復興を教育する立場」という言葉がひびきました。学校・生徒に合った副読本年間活用計画を再構成していかなばと思った。
- ・集団下校と防災教育を関連付けた取組は、本校でも可能だと考えた。副読本を使った保護者と一緒の学習も参考になった。
- ・地域との連携を大切にしている点を参考にしたい。PTA活動等でも連携を深め、活動後に感想を共有するなどしていきたい。
- ・学校防災アドバイザー派遣事業活用の取組をぜひ持ち帰りたい。

復興教育講演会

講義 「防災意識を高める」

講師：盛岡地方気象台

水害対策気象官 工藤 貴彦 氏
防災気象官 三上 康治 氏

★防災及び減災に対する対応計画の必要性や学校の誰もが具体的な規準の中で対応の判断ができる仕組みを構築する必要性などについて話していただきました。

<参会者の感想から>

- ・地域の災害素因をよく知る必要があることを、データをもとにお話いただきました。とても納得のいく内容でした。
- ・防災マニュアルを見直し、保護者と共有する必要があります。
- ・ハザードマップ作りに挑戦し、根拠のない安全への過信（正常化の偏見）を取り除きたい。子どもたちの安全を守りたい。

講演 「いわての復興教育の推進（震災に学ぶ）」

講師：一関市立東山小学校
千田 智明 校長

★震災当時、大船渡市立赤崎小学校長として、陣頭指揮にあたったときのことを詳しく話していただきました。



<参会者の感想から>

- ・児童の安全を考え「今日は道具を入れたランドセルを机の脇にかけて…」と話した主任のようになりたいと思った。
- ・私たちに何ができるか、どのように風化させずにこの震災を伝えていけばよいかを考えさせられた。
- ・岩手の教員としてしっかりやらねばと思った。子どもたちの命をどう守るか判断し、行動できるよう自分を高めていきたい。
- ・子どもたちに、主体的に行動できる基礎をしっかりとつけさせることが、我々教員の責任だと改めて感じた。